

図 2※ 十勝岳 最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月～2007 年 2 月) ↑印はごく小規模な噴火
 ・62-2 火口の噴煙活動はやや活発な状況が続いていましたが、2006 年 1 月以降低下傾向が見られます。
 ・地震活動は 1999 年後半から比較的静穏に経過しています。火山性微動は 2006 年 2 月 15 日以降発生していません。



図3 十勝岳 62-2 火口周辺の状況
(2月26日 西側上空から撮影)



図4 十勝岳 62-2 火口内の状況
(2月26日 東側上空から撮影)

- ・ 62-2 火口からは、北側内壁と北西側内壁の2箇所に対応するとみられる白色の噴煙が、高さ 100 m 程度まで立ち上り南東方向に流れているのが確認されました。2006 年 9 月の調査観測で活動の衰退が確認された西側火口底からは噴煙は認められませんでした。
- ・ 大正火口では、東壁上部数箇所から立ち上る 20~30m の弱い白色の噴気が認められました。

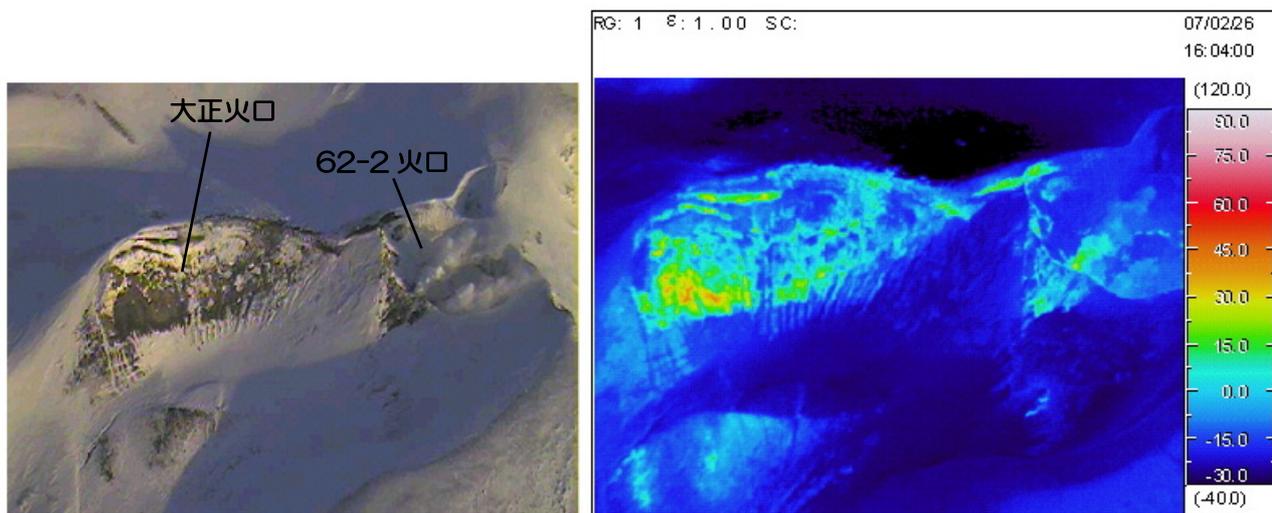


図5 十勝岳 赤外熱映像装置*による 62-2 火口周辺の表面温度分布
(2007 年 2 月 26 日 西側上空から撮影)

- ・ 赤外熱映像装置による観測では、62-2 火口からの噴煙や大正火口の地熱域に対応する高温域が認められました。温度分布の状況に特段の変化はありませんでした。

* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

表 1 十勝岳 地震・微動の月回数 (H点：山頂付近 [図 6 TOKH] A点：山麓点 [図 6 TOKA])

2006 年～2007 年	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
H点地震回数	48	37	32	16	25	22	19	32	83	76	90	54
A点地震回数	10	4	12	3	6	2	2	4	6	8	9	12
H点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

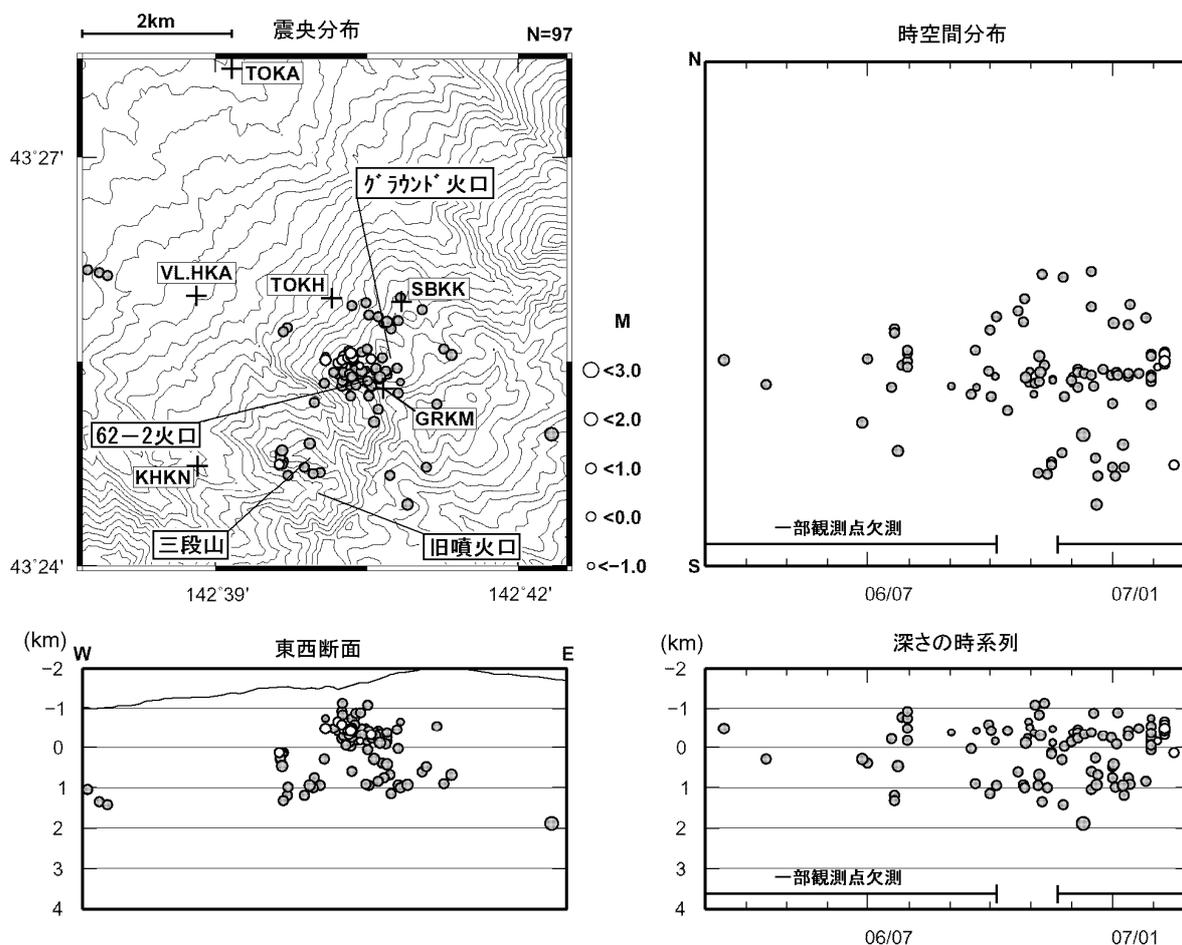


図 6※ 十勝岳の震源分布図 (2006 年 3 月 1 日～2007 年 2 月 28 日、+は地震観測点)
 2006 年 11 月 22 日以降、一部観測点欠測のため震源決定能力が低下しています。
 ○印は今期間 (2007 年 2 月) の震源
 ●印は前期間までの 11 ヶ月間 (2006 年 3 月～2007 年 1 月) の震源

- ・前期間までの震源はグラウンド火口周辺の浅い所 (山頂から深さ 1～3km 付近) に集中しているほか、三段山～旧噴火口周辺の浅い所にも分布しています。今期間に求まった震源も、おおむねこの領域内に分布しています。

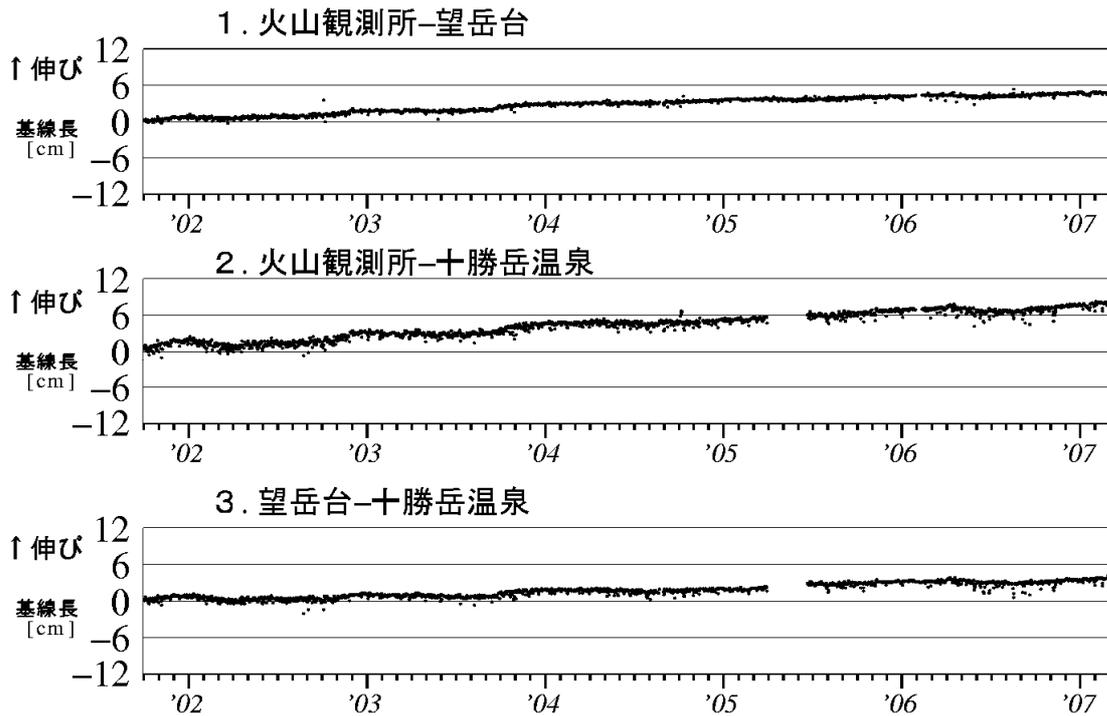


図 7 十勝岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 10 月~2007 年 2 月)
 グラフの空白部分は欠測
 図 5 の 1~3 は、図 6 の GPS 基線①~③に対応しています。

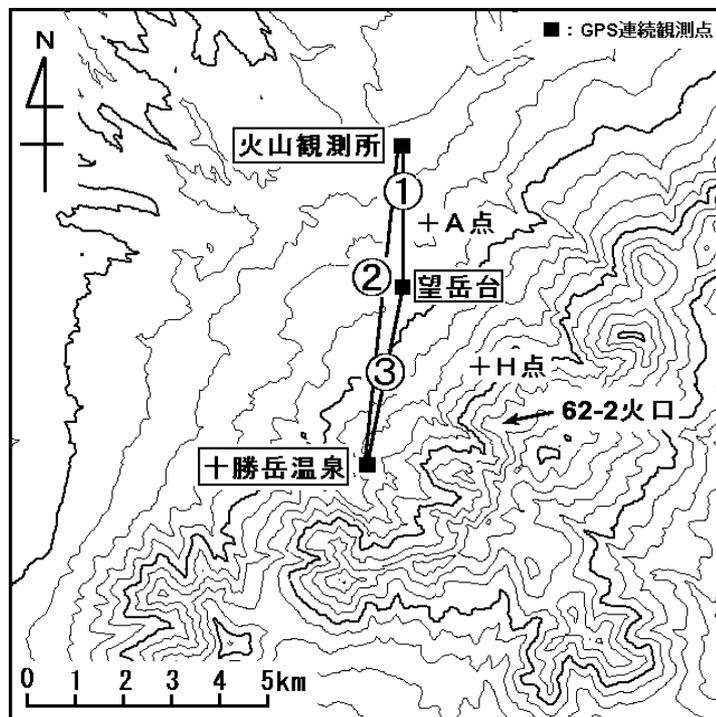


図 8 十勝岳 GPS 観測点配置図